

子宮体がん～子宮体がんの症状としては早期から不正性器出血を認めます。不正性器出血が持続する場合は必ず産婦人科を受診してください。～



北九州市立医療センター
副院長
産婦人科
尼田 覚

■女性特有のがん、子宮体がんはどのような病気でしょうか？

子宮は膈側を頸部、その奥を体部といいます。妊娠したら赤ちゃんを育てるのが子宮体部になります。子宮体部の内側を覆うのが月経を起こす子宮内膜ですが、その子宮内膜にできるがんが子宮体がんです。

■どんな方が罹りやすいのでしょうか。また、何か症状が現われますか？

子宮体がんには2種類あって女性ホルモンのエストロゲンが関係している50歳くらいを中心に比較的若い方に起こるがんと、エストロゲンと関係のない60歳以上の高齢者を中心に起こるがんがあります。エストロゲンが関係している子宮体がんは、月経が不規則な方や肥満の方が罹りやすいといわれています。子宮体がんの症状としては多くの方が初期の段階から不正性器出血を自覚されます。

■治療をせずに放っておくとどうなりますか？

不正性器出血が持続し貧血になっていきます。またがんが進行するとリンパ節や肺、肝臓、骨などの臓器に転移を起こし痛みや各臓器の色々な症状が出てきます。

■検査と診断について教えてください。

検査は超音波検査と子宮内膜の細胞や組織の採取検査を行い診断していきます。MRI検査やCT検査でがんの進行や転移の有無を診断していきます。

■どういう場合に手術が選択されますか？また、患者の身体にやさしい治療法があるのでしょうか？

子宮体がんの治療の原則は子宮と卵巣、卵管を摘出する手術になります。リンパ節に転移している可能性が高い場合にはリンパ節も摘出します。患者さんの状態に応じて腹腔鏡による手術も積極的にを行っています。進行したがんには抗がん剤治療や放射線治療も行います。妊娠を希望される若い方でエストロゲンが関係している初期のがんであればホルモン治療も有効ですが、その際は頻繁に超音波検査、組織検査を繰り返して効果があっているかを確認する必要があります。

■治療をすれば、子供をもうごうと可能でしょうか？

ホルモン治療の効果があれば可能です。元々月経が不規則で妊娠しづらい方が多いのと、ホルモン治療後の再発は決して少なくはないので、ホルモン治療をした後でできるだけ早く不妊治療を受けていただく必要があります。

■合併症や再発のリスクはありますか？

どの治療においても多少の合併症があります。子宮卵巣を摘出した場合には妊娠はできなくなりますし、閉経前であれば卵巣の欠落症状が出てくる場合があります。ほてりや発汗などの症状です。リンパ節を摘出した場合には足が腫れやすくなるリンパ浮腫が起こることがあります。抗がん剤、放射線治療では色々な副作用が伴ってきます。ホルモン治療では血栓症、塞栓症という血管が詰まる副作用が出てくる場合があります。

子宮体がんは初期であれば治癒する可能性が高いがんですが、再発はゼロではありません。

■予防法はありますか？

子宮頸がんとは違って効果のある予防法はありませんが、他の生活習慣病と同様に健康な体を保つために食生活に気を付けることが肝心です。また、月経不順であれば若いうちから産婦人科で診てもらうことが大切です。

■最後にメッセージをお願いします。

子宮体がんは日本では年々罹患数が増えています。現在では1年で約15000人の方が罹患しています。子宮体がんの症状としては早期から不正性器出血を認めます。早期に診断がつけば治る可能性が高いがんです。不正性器出血が持続する場合は必ず産婦人科を受診してください。日頃からちょっとした症状でも相談できるようなかかりつけ医をもつことをお勧め致します。